

## ■ 掲示板

### □ 国内外の関連会議情報

| 開催期間              | 行事名   | 開催場所                       | 関連ウェブページ  |
|-------------------|---|----------------------------|---|
| 2018 年<br>8/7-10  | 第 15 回日本加速器学会年会   | ハイブ長岡 (新潟県長岡市)             | <a href="https://www.pasj.jp/dai15kainenkai/index.html">https://www.pasj.jp/dai15kainenkai/index.html</a>   |
| 9/9-13            | IBIC2018—The 7th International Instrumentation Conference   | Shanghai, China            | <a href="https://indico.sinap.ac.cn/event/3/">https://indico.sinap.ac.cn/event/3/</a>   |
| 9/16-21           | LINAC2018—The 29th LINAC Conference   | Beijing, China             | <a href="https://indico.ihep.ac.cn/event/7319/">https://indico.ihep.ac.cn/event/7319/</a>   |
| 9/18-20           | J-PARC workshop: International workshop on non-invasive beam profile monitors for hadron machines and its related techniques (3rd IPM workshop) | J-PARC センター<br>(茨城県那珂郡東海村) | <a href="https://conference-indico.kek.jp/indico/event/55/">https://conference-indico.kek.jp/indico/event/55/</a>                                     |
| 9/30-10/5         | WAO'18—The 11th Workshop on Accelerator Operations  | Stony Brook, US            | <a href="https://www.bnl.gov/WAO18/">https://www.bnl.gov/WAO18/</a>   |
| 10/16-19          | PCaPAC2018—The 12th International Workshop on Emerging Technologies and Scientific Facilities Controls  | Hsinchu, Taiwan            | <a href="https://indico.nsrcc.org.tw/event/1/">https://indico.nsrcc.org.tw/event/1/</a>   |
| 11/11-16          | 第 14 回核破砕材料技術国際ワークショップ  | いわき産業創造館<br>(福島県いわき市)      | <a href="http://j-parc.jp/researcher/MatLife/en/meetings/IWSMT-14/index.html">http://j-parc.jp/researcher/MatLife/en/meetings/IWSMT-14/index.html</a> |
| 2019 年<br>5/19-24 | IPAC19—The 10th International Particle Accelerator Conference 2019  | Melbourne, Australia       | <a href="http://www.ipac19.org/">http://www.ipac19.org/</a>   |
| 8/1-8/3           | 第 16 回日本加速器学会年会   | 京都大学吉田キャンパス<br>(京都市)       | <a href="https://www.pasj.jp/">https://www.pasj.jp/</a>   |
| 9/22-27           | NA-PAC19—North American Particle Accelerator Conference 2019  | Lansing ML, US             |   |
| 10/7-11           | ICALEPCS2019—The 17th International Conference on Accelerator and Large Experimental Physics Control System                                     | New York, US               |   |
| 2020 年<br>5/10-15 | IPAC20—The 11th International Particle Accelerator Conference 2020  | Caen, France               | <a href="http://www.ipac20.org/">http://www.ipac20.org/</a>   |
| 2021 年            | IPAC21—The 12th International Particle Accelerator Conference 2021  | Santos, Brazil             |   |

## □関連団体からの報告

### ■高エネルギー加速器科学研究奨励会 奨励賞候補者募集要綱 (平成30年度)

**趣 旨：**加速器ならびに加速器利用に関する研究において、特に優れた業績をおさめた研究者・技術者に次の4賞で構成される奨励賞を授与し、もって加速器科学の発展に資することを目的とする。

#### 各賞の応募条件：

**西川賞：**加速器ならびに加速器利用に関する実験装置の研究において、独創性に優れ、かつ論文発表され、国際的にも評価の高い業績をあげた、原則として50才以下(応募締切時)の単数または複数の研究者・技術者

**小柴賞：**素粒子研究のための粒子検出装置の開発研究において、独創性に優れ、国際的にも評価の高い業績を上げた、原則として50才以下(応募締切時)の単数または複数の研究者・技術者

**諏訪賞：**加速器科学の発展上、長期にわたる貢献など特に顕著な業績があったと認められる研究者・技術者・研究グループ

**熊谷賞：**研究開発、施設建設など長年の活動を通じて、加速器や加速器装置への顕著な貢献が認

められる企業の加速器関係者

**表彰件数：**4賞合わせて5件程度

**賞の内容：**賞金(各賞30万円)と表彰盾(各課題毎)を授与する

**選考方法：**推薦のあった者について公益財団法人高エネルギー加速器科学研究奨励会選考委員会で選考し、理事会において決定する。

**選 考：**平成30年11月上旬

#### 提出書類：

- (1) 推薦書(当公益財団法人のホームページに掲載の様式による)
- (2) 選考資料 研究業績に関する発表論文(3編以内)のコピー(各2部)

#### 受付期間：

平成30年6月1日(金)～平成30年10月25日(木)

#### 書類の提出ならびに問合せ先：

公益財団法人 高エネルギー加速器科学研究奨励会 事務局

〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1

高エネルギー加速器研究機構内

TEL・FAX：029-879-0471

E-mail：info@heas.jp

ホームページ：http://www.heas.jp/

## ■会告

### ■第15回日本加速器学会年会

**会 期：**2018年8月7日(火)～10日(金)

8月7日(火)は別会場で特別講演および、見学会を実施

**会 場：**ハイブ長岡(長岡産業交流会館)

〒940-2108 新潟県長岡市千秋3丁目315-11

(JR長岡駅から路線バスで25分以内)

**一般公開講演：**8月7日(火)18:30～20:00

ホテルニューオータニNCホール

「加速器で探る宇宙の謎」

村山 齊 東京大学・カブリ数物連携宇宙研究機構長(特任教授)

**技術研修会：**テーマ「シミュレーション技術」

ハイブ長岡 合同会場

8月9日(木)

山岡 広(高エネルギー加速器研究機構)

講演内容：「ビーム衝突点用超伝導電磁石(QCS)の機械設計とシミュレーション技術」

8月10日(金)

倉橋 貴彦(長岡技術科学大学)

講演内容：「数値シミュレーションの基礎(時間進展問題に対する解析の留意点について)」

**参加資格：**非会員の方も参加可能です。

**当日払い参加費：**

会員 6,000円(学生2,500円)、

非会員 8,000円(学生4,500円)

**U R L：**<https://www.pasj.jp/dai15kainenkai/index.html>

**問い合わせ先：**

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5

アカデミーセンター

PASJ2018年会事務局 年会ヘルプデスク

E-mail：pasj-desk@bunken.co.jp

## □議事録

### ■第26回日本加速器学会評議員会議事録

日 時：2018年3月31日(土)15:00~17:00

場 所：三美印刷(株)CTC大会議室

出席者：

熊谷 教孝(会長, 第8期評議員/高輝度光科学研究センター), 田中 俊成(広報幹事/日本大学), 栗木 雅夫(編集幹事, 第8期評議員/広島大学大学院), 古屋 貴章(庶務幹事, 評議員/高エネルギー加速器研究機構), 中村 剛(行事幹事, 第8期評議員/高輝度光科学研究センター), 佐藤 潔和(会計幹事, 評議員/東芝エネルギーシステムズ(株)), 羽島 良一(第8期会長/量子科学技術研究開発機構), 柏木 茂(第8期編集幹事/東北大学), 長谷川 和男(第8期会計幹事, 評議員/日本原子力研究開発機構), 宮本 篤(第8期広報幹事/東芝エネルギーシステムズ(株)), 西森 信行(第8期行事幹事, 第8期評議員/量子科学技術研究開発機構), 上坂 充(東京大学), 浦川 順治(高エネルギー加速器研究機構), 大竹 雄次(理化学研究所), 加藤 政博(分子科学研究所), 鎌田 進(総合研究大学院大学/高エネルギー加速器研究機構), 黒川 真一(高エネルギー加速器研究機構), 佐々部 順(浜松ホトニクス(株)), 仙波 智行((株)日立製作所), 筒井 裕士(住友重機械工業), 内藤 富士雄(高エネルギー加速器研究機構), 野田 章(量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所), 浜 広幸(東北大学), 古川 和朗(高エネルギー加速器研究機構), 道園 真一郎(高エネルギー加速器研究機構), 鷲尾 方一(早稲田大学), 大垣 英明(第8期評議員/京都大学), 上垣外 修一(第8期評議員/理化学研究所), 神谷 幸秀(第8期評議員/高エネルギー加速器研究機構), 金正 倫計(第8期評議員/日本原子力研究開発機構), 黒田 隆之助(第8期評議員/産業技術総合研究所), 田辺 英二(第8期評議員/(株)エーイーティー), 筒井 裕士(第8期評議員/住友重機械工業(株)), 花木 博文(第8期評議員/高輝度光科学研究センター), 林崎 規託(第8期評議員/東京工業大学), 松岡 雅則(第8期評議員/三菱重工業(株))

議 事：

0. 熊谷会長より第7期評議員のうち20人出席により評議員会の定足数を満たしたため, 評議員会が成立したことが宣言された。また, 第25回議事録が確認された。

1. 田中広報・ウェブ幹事より, 広報幹事報告があった。広報委員会メンバーについて, 広報幹事が4月より宮本 篤氏に交代し, 田中幹事は委員としてしばらく継続する。

ほか, 通常活動として, 公募・国内外会議のウェブページについて随時更新を行っている。

第14回年会の年会プロシーディングスの編集については, 発表者のうち15名の協力を得た。プロシーディングスの公開が当初の予定より遅れ, 12月にずれこんでしまったものの, 効率化への課題は明確になったため, 短期間で終わらせる工夫をして今後も継続したい。最終的にウェブに掲載された論文は353件となった。

第15回年会から, 参加登録システムを決済サービスに変更した。発表申し込みは引き続き広報委員会監修の現行システムを利用する。

学会サーバを三美印刷サーバに移転する方針で準備していたが, 学会事務局が移転となるため, ファーストサーバを継続利用することになった。ホームページデザインは三美印刷でデザインしたものを買い上げたため, 近々更新を予定している。また, ファーストサーバでウェブページ暗号化アクセスキーの無料提供を開始したので, 現在, 学会のウェブは原則として暗号化アクセスに切り替えてある。

ホームページデザイン更新後は第13回年会の際に撮影した特別講演ビデオ, 学会誌の特集号ダイジェストの掲載も予定している。

今後ウェブページの充実等のため, 広報委員を募集している。

2. 栗木編集幹事より, 編集幹事報告があった。編集幹事は4月から柏木 茂氏に交代し, 栗木幹事は委員としてしばらく継続するほか, 長谷川和男氏が会計幹事就任のため金正 倫計氏と交代, また広報幹事として参加していた田中氏が幹事交代にともない宮本氏参加となる。

学会誌の発行は順調に行われている。15巻1号までは三美印刷(株), 2号以降は移転先の(株)国際文献社から発行する。事務局の移転で編集体制

は変わるものの、読者への影響は少ないと思われる。

近年は学会誌4号を特集号にあてているが、前回は道園評議員から「国際リニアコライダー (ILC) 計画と日本の加速器研究者の役割」というテーマの提案を受け、編集委員会で検討・設定した結果、「国際リニアコライダー (ILC) 計画と新しい科学プロジェクトのあり方」をテーマとした特集を編纂し、14巻4号特集号として発行した。これまでの大型加速器計画とは異なる、提案、検討、そして建設段階から多国間の枠組みによるプロジェクトである ILC を中心に、プロジェクトマネジメント、社会的な意義、影響、などという多角的な視点から6人の著者にご執筆いただいた。また、ILC の多角的活用を考える会についての会議報告が同号に寄稿され、誌面を充実させることができた。連動企画として、日本物理学会第73回年会(東京理科大野田キャンパス)において、シンポジウム「国際リニアコライダー (ILC) 計画と新しい科学プロジェクトのあり方」を開催した。講演題目と講演者は多少誌面との変更点はあるがシンポジウムの参加者は200名程度で、会場は立ち見がでるほど盛況であった。

次の15巻4号および、以降の特集テーマについて募集を継続している。次回の特集を4月の編集委員会で決めるので、テーマの提案などを連絡してほしいとの呼びかけがあった。

ほか、掲載済みの特集記事の一部を学会ウェブページで公開する計画で広報委員会と準備を行っており、編集委員会では著者から許可のあった原稿の抄録を作成している。

3. 古屋庶務幹事から庶務幹事報告があり、去年1年に共催、協賛、後援の依頼を受けたシンポジウムや研究会等のリストが示された。続いて、2014年からの会員数の推移について説明があり、やや増加の傾向が続いているとの説明があった。

4名の個人会員と1社の賛助会員入会希望が承認された。入会者の追加承認は原則として、月ごとに評議員会のメール審議を行う予定である。

現在、学会費滞納または長期にわたり連絡の取れない会員についてリストが示された。当該会員には3月12日にメールを送っているが、返事がない状態のため、評議員のうち心当たりがある人がいれば、納入を呼びかけていただき、5月末ま

で連絡がなければ退会処理を行うことになった。

卒業後に連絡がつかなくなる学生への対策として、前回の評議員会で決定の通り、学生会員の入会申し込みの際に、担当教員の氏名と連絡先を併記することにし、入会申込書およびwebページに、記入欄を設けた。

4月5日から学会事務局が移転することにとともに、移転の経緯と移転先の変更点について説明があった。2017年11月に三美印刷社と学会事務局支援業務に関して今後の展開について協議した結果、学会事務局業務から撤退の方針であることを知り、12月に幹事会として業務委託の移転先の検討を開始した。現在の事務局業務機能の継続、年会事務支援の可能性、事務局人員の複数化などを条件として数社を比較検討し、その結果、国際文献社を選択した。経費はこれまでと同程度が見込まれている。その後契約手続きを進めるとともに、順次移転作業を進めており、4月4日に完了、4月5日から事務局は国際文献社へ移ることになった。

事務局移転についてはメール、学会誌、webなどで広報する予定であり、メールでは既に3月30日付けで全会員に通知済みである。会員受入れ、学会賞公募、年会準備など進行中の業務に大きな問題はなく、切り替えに伴う会員への直接的な影響はない見込みとなっている。移転後は事務局業務を複数社員が分担して担当することになる。新住所は下記の通りである。

日本加速器学会事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

電話番号：03-5937-0474

E-mail：gakkai@kasokuki.com (変更なし)

その他、報告事項として、2017年10月に中性子科学会から加速器中性子源の検討に関する連携の申し入れがあり、2018年3月に熊谷会長、古屋庶務幹事、コンタクトパーソンとして京大・岩下芳久氏、さらに評議員から KEK・内藤 富士雄氏を交えて中性子科学会の担当者と名古屋大学で第1回の検討会を開催し、今後の展開を検討した。今後の連携検討会のなかで、中性子科学会が考える中性子源の説明を受け、その加速器について技術的なアドバイスをすることで合意した。これに関連して、内藤氏より内容について文書の提

示と説明があった。

続いて、2018年2月に学術振興会から各機関へ振興会賞の推薦依頼があったため、幹事会として本年度の奨励賞受賞者・西内氏を推薦することにして手続きを進めている。

2017年4月に国立医薬品食品衛生研究所から「平成29年度次世代医療機器・再生医療等製品評価指標作成事業」として「BNCT審査WG報告書」作成への協力要請があり、東大・上坂 充氏に依頼した。報告書案は2018年1月に全会員に査読の案内を配信しているが、現在は報告書が完成したとの連絡があった。報告書はウェブでも公開されている。

なお、上坂氏にはさらに今年度も協力依頼があり、学会として同氏を推薦した。上坂氏より目的等について補足の説明があった。

最後に、2018年の学会賞について、応募締切を4月3日として募集を行っていることが説明された。評議員会時点での応募は技術貢献賞、奨励賞各1件の計2件である。

学会賞の選考委員は下記の7名が提案され、承認された。

濱 広幸, 田中 良太郎, 仙入 克也, 陳 栄浩, 小山 和義, 白井 敏之, 長谷川 和男  
4. 中村行事幹事より、年会関連および行事幹事報告があった。

はじめに行事委員会の構成について、行事幹事・広報幹事のほかウェブページ担当、予稿・法文集担当、会場担当に加え、第14回、15回の各委員長と、オブザーバとして第16回年会の委員長に加わっていただいていることが説明された。行事幹事は4月より量子科学技術研究開発機構の西森氏に交代するほか、広報幹事も田中氏から宮本氏に交代する。中村幹事はしばらく行事委員を継続する予定である。

続いて、2017年に行われた第14回年会について、参加者数484名、懇親会352名、施設見学164名、合同セッション含む研究発表が口頭70件、ポスター292件、施設現状報告ポスター36件、企業展示56小間と盛況であったとの報告があった。反省点としては、会場設営の確認が行き届かず、ポスターと向かい合う企業展示ブースの間の間隔が狭く、発表者、展示企業の両者にご迷惑をおかけしたため、設営の確認を、設営業者・

管理業者・行事委員会が連携して確実にを行うことにした。

ほか、年会賞については、最終日に受賞者を決定して閉会式で賞状を渡すことになっているが、受賞者決定から表彰まで時間の余裕がなく閉会式が遅延してしまった。短時間で賞状を作成できる手法を進めてきてはいるがさらなる改善を検討する。また、第14回年会では、物理学会から関連書籍販売のための出展希望があり、加速器学会および会員と深い関連がある学術団体であることを鑑みて、組織委員会の同意を得て賛助会員割引とした。会計は70万円弱の黒字となったことが説明された。年会収支については、数年間を平滑してお考えいただくことをお願いしていたが、2016年の年会での150万円程度の赤字については、その前後の年会の黒字により解消している。またそれ以前の年会は、黒字であった。

懇親会は例年立食としているが、第14回では着席で食べ放題・飲み放題とした。飲食で不足が発生しなかったため、参加者には概ね好評だったが、参加者間の交流の機会が取り難い形式となった。なお、他の地域で懇親会費を5,000円に抑えることは、昨今は困難な状況となっており、今後は値上げの可能性はある。

続いて新潟県長岡市で行う第15回年会の準備状況について説明があった。

開催期間については、2018年8月8日(水)から10日(金)、見学・特別講演8月7日(火)と表示していたが、大垣次期評議員より、前日の特別講演が日程上、年会とは別の扱いになっていることについて質問があり、議論の結果、見学・特別講演も年会のイベントであるため、前日から見学等の学会主催行事を行う場合は、前日も年会期間に含めることになった。今回の表示上は8月7日からとなる。また、見学会のみが別日程となる場合についても、今後は検討することとなった。

特別講演は一般参加可能とし、8月7日(火)夕方(年会前日の見学会終了後)「加速器で探る宇宙の謎」のタイトルで、村山 斉 東京大学・数物連携宇宙研究機構長(特任教授)に依頼し、長岡駅前 ホテルニューオータニで行う。

技術研修会は「シミュレーション技術」をテーマとし、ハイブ長岡 特別会議室にて8月9日(木)山岡 広氏(高エネルギー加速器研究機構)

に「加速器へ応用したシミュレーション技術の実例(仮題)」, 8月10日(金)に倉橋 貴彦氏(長岡技術科学大学)「シミュレーション解析の基礎(仮題)」をお願いしている。

施設見学会は8月7日(火)午後から長岡技術科学大学の大型パルスパワー発生装置(ETIGOシリーズ), 静電加速器, 朝日酒造株式会社を見学する。

懇親会は8月9日(木)の夜に行うが, 場所等は未定となっている。

参加登録は4月1日(日)11:00~7月25日(水)17:00にウェブページから登録, 支払いを行う。支払い方法は広報幹事報告の通り, 参加費支払い専用のwebページを用意(「イベントペイ」)しており, クレジットカード払い, コンビニエンスストア払い, ペイジーで振り込むほか, 期限を過ぎた場合は当日払いも受け付ける。発表申込み方法は昨年と変更はない。参加費は据え置きとする。

前回の第24回評議員会において提案し承認を得たように, 業者への年会業務の委託を増やし, 実行委員会の負担を減らす方向で検討している。今後, 費用と効果を精査して, 業者・事務局, 実行委員会, 行事委員会の分担を決める。

企業展示の会場は広い会場の片面を予定しており, 空いた半面にも他のイベントの予約は入れないことになっている。全面を借りた場合, ポスターを2日分掲示する, 休憩や打ち合わせ用の場所の設置, 懇親会場などを設けることなども可能となるので, 行事委員会で検討している。

前回より各カテゴリへの発表申込件数(口頭, ポスター)に比例させることを原則とし, かつ内容を検討して割り当てることとなったが, 今回もこれを踏襲することになった。

合同セッションについて2016年の年会から, 数件をプログラム委員会で選定し, 残りの枠に発表申込から割り当てることを行っているが, 今年もこれを踏襲し, 4枠のうち3枠をプログラム委員会でテーマを決定し, 残り1枠は, 発表申込から選択することとなった。

プログラム委員会で選定されたテーマは以下となった。

\* 加速器電源(ハイパワーパルス電源:長岡技術科学大学)

\* SuperKEKB

#### \* IFMIF

2016年に新設された新カテゴリ「革新的加速器技術(の提案)」(ポスター発表のみ, 2日間の掲示)は, 2016年は2件, 今回は6件の発表があった。今年もこのカテゴリを継続することとなった。

“加速器技術・高周波加速構造”を, “加速器技術・加速構造”に変更し, 高周波とは呼べないような構造(誘導加速等)に対応することとなった。

技術研修会について, 今年のテーマは, 「シミュレーション技術」となった。これは昨年からの申し送りとなったテーマであり, 再度, 候補に挙げて検討し, 選定された。加速器の設計の現場の話題を山岡 広氏(KEK)に, シミュレーション解析の基礎を倉橋 貴彦氏(長岡技術科学大学)に, それぞれ依頼している。内容については, 現在, 調整中である。

年会賞については, 組織委員長が授与するものであり, 若手研究者を奨励するために設けられている。この募集の文言として, 従来は, “学生や博士研究員などの若手研究者を対象として”としていたが, これを“研究活動・研究者生活の初期段階にある, 学生および若手研究者を奨励することを目的として”に変更した。これは, 企業所属の方からも応募いただいていることに対応するためである。

プログラム委員については, プログラム委員会の申し合わせ(2012年作成, 2015, 2017年改訂)に従い, 連続した再任は3回までとしている。加えて, 慣例として再任はせず, 新しい方に委員に就任いただいている。委員の選定はプログラム委員長が行うが, その際, プログラム委員や行事委員会の意見を取り入れている。

第16回年会は2019年7月31日(水)から8月3日(土)に京都大学吉田キャンパスで開催する準備を行っている。

組織委員会, プログラム委員会, 実行委員会の役割, 関係を整理するため, 組織委員会規定案を示した。これまでの慣例を成文化したものである。なお, 年会参加費は現状では, 組織委員会が決定している。評議員会でのコメントを考慮した案を作成し, 組織委員会の承認を得たのち, 改めて評議員会に提案する予定。この第15条について道園評議員から, 組織委員会の賛成がないと評

議員会に提案できないというように見えるので、わざわざ書かなくてもよいのではないかと、この意見があった。これについて行事委員でもある黒田評議員から、組織委員会から変更提案が可能であることと、およびそれを行う手続きを明示しているだけと思われるため、主語を組織委員会に変えたほうがよいのではないかと、このコメントがあった。この箇所について、組織委員会で検討することになった。

続いて、中村行事幹事より年会の4日間について提案があり、コメントの募集があった。現在、ポスター件数は190件/日(内、2日間掲示40~50件)近くにのぼり、十分な議論が難しいのではないかと懸念があり、また、ポスターの間隔や通路のスペースにも大きな制限が加わり、参加者に負担を強いるとともに、会場の選定の自由度が限られている状況となっている。また、現状では、学会としての企画イベントを設定する時間、場所の余裕がないため、年会の期間を4日間とすることを提案した。参加費としては、会場費が増えることから、1,500円から2,000円の値上げが想定される。

なお、組織委員会では1名の委員から、「4日間となっても、個人としては実質の参加期間は、2~3日となることが予想される。年会を交流の場と捉えるのであれば、現状の3日間とするほうがよいのではないかと」との意見があった。

年会4日間については、評議員会でのメール審議・議決の後、会員からのパブリックコメントを募集し、その結果をもって総会での報告(あるいは承認)を予定している。

2020年の年会について、前回年会時の組織委員会において、九州地方が候補地として挙げられたが、当地の加速器施設の関係者にコンタクトしたところ、いずれも他学会の開催の兼ね合いから2020年の共催は難しいとの回答となった。ただし、九州大学からは2022年であれば共催の可能性はあるとお話をいただいた。2020年の年会については、年会を共催いただけるような加速器施設がなく、これまで開催地となったことがない四国を候補として提案した。実行委員会は、加速器学会の行事委員会を中心として会員の方々にご助力をいただいて組織し、学会運営業者・イベント業者への業務の委託を進めながら運営するこ

とになる。

日程は2020年8月4日(火)~7日(金)、場所は愛媛県の松山市総合コミュニティセンター。

懇親会は松山城でのケータリング、年会会場でのケータリング、周辺のホテルなどを検討している。但し、懇親会費が現状の5,000円ではまかないきれないため、7,000~8,000円への値上げも視野に入れたい。

施設見学会は例年加速器関連の施設であったが、愛媛県にはないため、今治の造船所、別子銅山、愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター(放射光利用)などの可能性を検討している。また、住友重機械工業の工場等(新居浜、西条)も検討しているが、企業と学会との関係および同業他社が見学不可になる可能性がある。なお、どちらも松山からバスで1時間程度となる。バス代等について、見学会を有料とすることも検討する。

松山市の宿泊キャパシティはホテル6,500泊、旅館6,500泊であり、容量は十分にある。この期間で大きなイベントは今のところ予定されていない。同時期に開催される東京オリンピックの影響は未定だが、誘致中の各国のチームの合宿地となっても余裕は十分にある。

神谷次期評議員より、加速器や関連機器の見学は可能かとの質問があり、幹事会より住友重機械工業の工場を見学可能だが、企業関係者は見学不可となってしまったとの回答があった。鷲尾評議員より、見学先として住重アテックスの可能性を検討してはどうか、とのコメントがあった。

羽島次期会長より、開催地が観光地色の強いことについて、参加者が増える可能性もあるとのコメントがあった。

濱評議員より、加速器が関係ない松山を選択するということは、今後は加速器がなくても選択肢にするということなのか、今回だけの特別な提案なのか、質問があった。これについて、基本は共催機関がある場所、加速器とつながりがある地域を考えているとの回答があった。

住友重機械工業の工場見学について、同業他社として見学不可となる場合の対象となる佐藤幹事より、そのような制限があったとしても施設見学コースとして設定してもよいと思う、とのコメントがあった。ほか林崎次期評議員より、加速器がない地域でも関連メーカーがある場合、開催する

のは意味があると思うとのコメントがあった。

5. 佐藤会計幹事より、次期会計幹事を長谷川氏に交代するとの説明と、2017年度中間報告があった。中間報告は2月までの段階で、ほぼ予算案通りとなっており会費収入は会員数にあわせて設定しているため、未納者分が不足となっている。全体としては予算と近い金額になると予想される。

2018年度は、事務局が移転し、作業手数料が現在の定額制から作業ごとの請求となるため、金額が変動の見込みとなっている。他の経費等も含め、運営資金を検討の上、状況によって学会の年会費についても見直す可能性がある。

続いて、2018年度、2019年度監事について、2017年度総会で野田 章氏(QST)と大熊 春夫氏(JASRI/SPring-8)が2018年度、2019年度の監事として承認されたが、野田 章氏のご都合により監事を辞退され1名欠員となる。欠員の補充は細則第26条の定めにより、評議員会で正会員のの中から監事を選出し決定する。会長より日大の早川 健氏が推薦されており、大熊氏、早川氏で承認された。

6. 神谷加速器ハンドブック編纂委員長より「加速器ハンドブック」の進行状況の説明があり、長らく遅延はしていたものの、4月中旬に発行を見込んでいる。加速器学会員は会員割引となるため、関連団体の会員も割引対象に含めるか検討を行っている。

7. 羽鳥次期会長より、就任挨拶があり、4月から任命されている幹事会の紹介があった。

第8期での構想として、学会誌バックナンバーの会員外への公開、著作権規程の見直し・明確化、若手の会を結成したいとの話があり、参加委員の意見を求めた。

評議員から若手の範囲について質問があり、例えば45歳とする例があるとの意見が出た。大垣評議員より、若手の会で想定する活動内容について質問があり、羽鳥次期会長より、実際に若手と相談して決定するが、キャリアの問題の検討や、研究会の主催を想定しているとの回答があった。黒川評議員より、評議員に若手枠をもうける提案があった。

ほか、上坂評議員より、学術会議の第3部に委員を出してもよいのではないかと、との意見があっ

た。

最後に羽鳥会長より、第7期からの引き継ぎ案件として、昨年は倫理綱領を制定する際に軍事研究について議論が行われたが、結論が出ず綱領には含めないままとなっており、今後も議論を継続したいとの意見があった。成文(案)を作成する前に論点を多角的に整理して会員に示すことで、多くの会員の意見を集めることが必要と考えている。網羅する分野が基礎から応用まで幅広く、会員の所属が産官学にまたがっているとといった加速器学会に固有の事情も配慮する必要があると思われる。通常の研究との分離が難しい点について複数の評議員より指摘があり、議論の継続・問題の共有については賛同された。

以上

## ■会員移動(2018年4月～6月)

[一般会員入会]

安達 広幸((株)シェルター)

長谷部 裕雄(理化学研究所)

土田 浩二(ニチコン草津(株))

須田 利美(東北大学)

岡崎 徹(長瀬ランダウア(株))

松永 裕樹((株)竹中工務店)

細谷 青児(量子科学技術研究開発機構)

坂本 慶司(量子科学技術研究開発機構)

Ulderico Spadavecchia(東芝エネルギーシステムズ(株))

上川 将章((株)関電工)

仲野谷 孝充(日本原子力研究開発機構)

田島 佑斗(関東情報サービス(株))

深尾 祥紀(高エネルギー加速器研究機構)

野田 秀作(JFE エンジニアリング(株))

柴田 崇統(高エネルギー加速器研究機構)

高橋 勝之(加速器エンジニアリング(株))

近藤 恵太郎(量子科学技術研究開発機構)

林 秀原((株)パルスパワー技術研究所)

野田 文章((株)日立製作所)

森 紳悟(高エネルギー加速器研究機構)

平等 拓範(分子科学研究所)

Sharma Surender Kumar (Bhabha Atomic Research Center)

ほか14名

[学生会員入会]

安田 浩昌(高エネルギー加速器研究機構)

中沢 雄河(茨城大学)

武田 佳次郎 (大阪大学 核物理研究センター)  
竹内 佑甫 (京都大学)  
阿部 優樹 (一関工業高等専門学校)

ほか5名

[名誉会員入会]

熊田 幸生 (住友重機械工業(株))  
古矢 勝彦 (ニチコン(株))

[退会] 3名

## ■編集後記

今年4月から日本加速器学会の編集幹事を務めさせていただくことになりました。柏木です。早いもので編集幹事になり3カ月が経ちました。本号(15巻2号)も委員の皆さんや事務局の方々に支えられながら、何とか7月末の発行にこぎつけることができました。皆さんの手元に本誌が届くのは、長岡で開催される年会の直前のことでしょう。

本号では久保毅幸さんが「超伝導空洞の物理と窒素インフュージョン」にて、超伝導空洞表面についての理論的アプローチを紹介されています。この記事で久保さんは、しばしば難解な超伝導の物理を非常に分かりやすく説明されていますの

で、一読をお勧めいたします。今号では、今話題の「陽子電荷半径パズル」や「世界初のミュオン高周波加速」の記事もあり、楽しんでいただけたと思います。

この「編集後記」は、今回が初の試みです。今後も「読んで楽しい学会誌」を目指し、魅力的な記事の発掘、特集号、そして新しい企画にも挑戦したいと思っています。学会員そして読者の皆さんからの投稿、新しい企画の提案やご意見などをお待ちしています。

東北大学電子光理学研究センター  
柏木 茂